～精神医療講演会～（２９市民精神保健福祉講演会）

「ひとはなぜ病を得るのか
～イニシエーションと物語　～」

講師：東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長

糸　川　昌　成氏

日時：８月２０日（日）午後1:30～４時

場所：くにたち福祉会館大ホール　　入場料：無料

国立市富士見台２丁目３８－５　042-575-3221　予約不要：先着順
主催：精神障害者家族会シュロの会
問い合わせ：080-1211-6898　植松

【講演内容ダイジェスト】

四半世紀前、駆け出しのころの私が考えていた精神疾患は、「脳の病気」以外の何物でもありませんでした。たとえば、ある種の幻聴はドーパミン D2 受容体に還元できる。なぜならば、抗精神病薬で D2 受容体を遮断すると幻聴が消えるから。抑うつ気分の一部は、セロトニン神経で説明できる。なぜならば、抗うつ薬でシナプス間隙のセロトニン濃度をあげると抑うつ気分が解消されるから。こうやって、焦燥感はノルアドレナリン神経へ、不安は GABA 受容体というように、精神症状を脳のそれぞれのパーツへ局在化していけば、やがて精神疾患は脳の状態に全て置き換えられるはずだと考えていました。

こういった脳局在論的な疾病観は、精神障害の医療化が前提となります。医療化とは、個人の不調を個体の生理学的状態に原因づけ、不調が原因に基づいて診断され治療の対象とされることです。原因は、その人の中にある。たとえば、肺結核は結核菌の感染が原因であり、ストマイ・アイナー・リファンピシンの投与によって治療されます・・・・・・　続きは講演会で！！！